

あゆみ

2025年
夏キャンプWeb版



発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463

あゆみは続く

助任司祭

アシジのフランシスコ

熊坂直樹

「ともに歩む教会」をテーマにしたシノドス（世界代表司教会議）の第十六回通常総会は、二〇二三年から二〇二四年の会期で行われました。そのあゆみが世界中の信者に耳を傾けることに始まり、会期中も司教だけでなく信徒や修道者が参加したのはかつてないこととでした。さらに、シノドス最終文書に教皇が使徒的勧告で応えるこれまでの通例とは異なり、昨年発表された最終文書がそのまま教皇が発表した文書と同じ重みを持つものとして提示されたことも、異例のことでした。教皇フランシスコの前例にとられない柔軟

さと、全ての人を招く決意の固さが、同時にそこに現れています。

さらに今回は、今年から二〇二八年までを「交わり、参加、宣教するシノドス流の教会」という最終文書の内容を全世界の教会が実施するための期間と位置づけられたのです。つまり、今回のシノドスは、まだ終わっていないのです！

そのあゆみにおいて全世界の教会は、国籍、文化、言語、習慣、世代などなどの違いを乗り越えて、父なる神の子供であることで一致し、神の国の福音を証しする使命を分け持つよう招かれていきます。この多摩丘陵の地に根差した高幡教会も、そのような世界の教会と結ばれることで存在しています。だからここに集う私たちも、全ての人々と福音の喜びを分かち合う道のりを、ともにあゆまなければなりません。

ただしそれは、頭で理解しても、簡単に実行できることではありません。その困難な道にあゆみ出すきっかけになるのは、キリストにゆるされ、癒された体験ではないでしょうか。私たちの誰かが、人間の罪により傷つけ、傷

つけられた体験を抱えています。その体験は他者に心を開くことを困難にし、その影響は長年続くこともよくあります。しかし、キリストの救いの力により、そこからゆるされ、癒された体験は、私たちが福音の喜びで包み、頑なに閉じた心を他者に開けるように和らげてくれます。

その体験は、福音宣教の出発点になります。現に福音の喜びに包まれている人の生き様こそが、何よりも雄弁にキリストの福音を証しするからです。そして、私たちがまず福音を伝えるべき存在は、すぐそばにいる子供たちではないでしょうか。今回、子供たちは夏キャンプを体験し、一回り大きくなりました。その子供たちが、今後成長していく姿を温かく見守りましょう。私たちが福音の喜びに生かされている限り、彼らはキリストの福音を、柔らかな心に受け取ってくれるはずで

す。また、これまで高幡教会を支えてきたご高齢の皆さんにも福音の喜びが伝わるように、声掛け、送迎、訪問などのご協力を、引き続きお願いいたします。また、外国人や新しく教会を訪れる人々も、教会共同体に温かく迎え入れられるように、ご配慮をお願いいたします。すべての人を招く教会のあゆみは、これからも続きます。互いに福音の喜びを分かち合いながら、その道をとらに行きましょう。†

教会委員会だより

教会委員会 委員長

酷暑が長く続いていましたが、最近、漸く暑さが和らいできました。九月下旬には、マリア様のお近くに、美しい彼岸花が咲いているのを見ることができました。私が病欠の三週間余りの間、ご迷惑とご心配をおかけいたしました。委員長不在にも関わらず、教会活動が更に活発に行われている様子を見まして、皆さまの教会への深い思い入れと愛情がこの場を作っている、という思いを新たにいたしました。

今回は、二〇二五年八月から九月までの教会委員会だよりを記載します。

●聖母被昇天

八月十五日の聖母被昇天にて、ミサ後に茶話会を行いました。平日ではありましたが、三十名余りの方にご参加いただき、和やかな交流の時間となりました。

●教会学校夏キャンプ

八月二十一日から二十三日にかけて、養沢センター、及びカトリックあきる野教会にて、教会学校の夏キャンプが行われました。小学生、中学生、若者、大人三十名近くが参加し、川遊び、スイカ割り、キャンプファイヤーと楽しい時を過ごしました。最終日には、小学生と中学生が侍者、朗読、共同祈願、奉納を担当し、皆でミサをお捧げしました。

●敬老の日

九月十四日の敬老の日、二十五名のご高齢の方がいらして下さり、聖堂いっぱい、の信徒がミサに与りました。ミサの中で、ご希望の方に、病者の塗油が授けられました。ミサ後の茶話会では、教会学校夏キャンプで作成したフレンドシップツリー（誰かに言ってもらって嬉しかったことを、画用紙に書いて貼り付けたツリー）の続きを皆で作成しました。子ども達、若者、壮年者、ご高齢者とともに歌い、歓談する、恵み深い時間になりました。

●その他

●九月二十一日に、熊坂神父様がお話し下さる「ミサについての講話」の第一回がありました。次回は、十月十二日の予定です。

●八月三十一日に、地区委員の集まりが持たれ、連絡体制、行事や掃除の分担のあり方などが検討されました。

●九月十四日から十五日にかけて、カトリックあきる野教会にて、中学生以上を対象にした一泊錬成会が実施されました。

●受付横の流し、及びお御堂裏物置の補修を行いました。

●今後の予定

●十一月三十日、高幡教会にて、アンドレア司教様をお迎えして堅信式を行う予定です。



教会学校

夏キャンプ消息

育成担当より

教会委員会 育成委員

今年の夏キャンプも、神さまに守られて無事に終わることができました。二泊三日のキャンプには、小学生十名、中学生・専門学生四名、大人十四名の合わせて二十八名が参加しました。

初日は養沢センターで過ごし、二日目にはあきる野教会に移動、最終日は高幡教会で解散しました。笑顔がいっぱいの、とても和やかなキャンプになりました。

プログラムでは、川遊びやスイカ割り、花火といったお楽しみに加えて、キャンプファイヤーでは班ごとのスタンツ（出し物）で盛り上がりました。製作活動の時間には「フレンドシップツリー」を作り、「お友だちにしてもらって嬉しかったこと」や「言われて嬉しかったこと」を書いて葉っぱに見立て、みんなで大きな木に貼っていききました。温かい気持ちになれる、素敵な時間でした。

子どもたちは友だちと協力しながら三日間を過ごし、遊びや活動を通してた



養沢センター集合写真

くさんの成長を見せてくれました。その姿は大人にとっても励みであり、私たち自身の信仰生活にも恵みを与えてくれました。

今回のキャンプを支えてくださった熊坂神父様や保護者の皆さま、リーダーや若者の方々に心から感謝いたします。このキャンプでの経験が、これからの教会学校の歩みにつながっていくことを願っています。

感想文

● 八月二十一日(木)

◆ (中2)

今日は、川遊びやスイカわりをしました。ふだん出来ない経験でとても楽しかったです。でも、とくに一番楽しかったのはキャンプファイヤーです。みんな

火をかこんで様々なことを出来たのは、とてもいい思い出です。

◆ (小6)

川遊びとみんなでおどったのが楽しかった。明日もたのしみ。

◆ (小6)

今日は、キャンプファイヤーが楽しかったです。具体的にはマイムマイムやアブラハムなどのおどる系のやつが楽しかったです。劇も楽しかったです。

◆ (小4)

川あそびをしました。たいりょうにかけられて、目がいたかったです。ザリガニのうきわにのつたらしみしました。水でつぼうのいりよくがつよかったです。

◆ (小4)

川で魚がいたからバケツでつかまえてようとしたけど、メダカのようなものすごく小さな魚しかつかまらなかった。キャンプファイヤーのげきもうまくいった。



川遊び

◆ (小4)

今日は、まず川遊びをして、水でつぼうなどをしました。つめたくて気持ちよかったです。つぎに、すいかわりもしました。ぼうがスイカにあたつてうれしかったです。そしてキャンプファイヤーもしました。いっぱいおどれておもしろかったです。

◆ (小4)

きょう、夜に、キャンプファイヤーをしていろいろあそんだ。あと、水遊びもしてAにかけられて、まるで病気のような、震えが止まらなくて。そして、すいかわりもしてスイカがおいしかった、あと昼と夜の食事がおいしかった。とくに夜のハンバーグがおいしかった。



スイカ割り

◆(小4) 今日、水遊びをしたり、夜はキャンプファイヤーをやって楽しかったです。

◆(小4) 川遊びをしたのしかった。Aにいっぱい水かけられた。キャンプファイヤーの中あつかった。すいかわりうてない!!

◆(小2) ダムをつくったとき、水をとめるのがむずかしくてたいへんでした。けれどたのしかったです。

◆(小2) すごいあつかったけどみんなでスタンプやおどりやうたをしたのしかった。



キャンプファイヤー



養沢センターでの食事時間

●八月二十二日(金)

◆(中2) 今日もたくさんのことをしました。花火、朝の体そう、フレンドシップツリーなどです。でも一番心に残ってるのはみんなで、ママたちがごはんを作ってるときに遊んだことです。人ろう、トランプ、「はあ」っていうゲームをしました。たわいもないことだったけど楽しかったです。他には、昨日のことになっちゃうけど、小学生の子が寝たあとに中学生以上で夜ふかし会をしたのも楽しかったです。(私は鬼滅を読んでもした)なにもかもが楽しかったです!

◆(小6) ぼくは、花火をやったのが楽しかったです。お昼ごはんも朝ごはんも夜ごはんもおいしかったです。



あきる野教会での小中学生中心のミサ

◆(小6) 制作活動の手を切ったのも楽しくて最後の花火も楽しかった。ご飯もおいしかったし、二日間あつというまだったけどとても楽しかった。

◆(小4) はなびをしました。てにあたってあつかったです。でもたのしかったです。

◆(小4) 今日は、まず、ラジオ体そうで、リフレッシュしました。そして、おもしろかったのが夜ごはんの前にみんなでゲームしたこと。そして「フレンドシップツリー」も作りました。みんなの気持ちを知れてうれしかったです。明日は一日ではないけど、みんなと、もっと遊びたいです。



あきる野教会集合写真



あきる野教会での食事の準備



あきる野教会でゲーム1



あきる野教会でゲーム2



高幡教会での解散式



みんなで作ったフレンドシップツリー

◆(小4)

今日、朝起きた時、ねむすぎたけど、目がさっぱりさめて、「よくねむれたかな」と思って夜に花火をしました。でもエナが今日、帰ってしまったことが悲しいです。また会えますように・・・。

◆(小4)

かぞくではなびがでなかつたけど夏キャンではなびができてよかったです。

◆(小4)

今日、まず朝ラジオ体操をして、車でいきました。あきるの教会にとうちやくしたら人狼しました。花火もたのしい！！

◆(小4)

よるのはなびがきれいだった。せんこうはなびもきれいだった。

●八月二十三日(土)

◆(中2)

今日はミサをして、その後に朝ごはんを食べました。七時に起きるのは、大変だったけどみんなと朝からお話ししたりできて楽しかったです。そして改めて三日間をふり返ると楽しいことがいっぱいでした。川遊び、夜ふかし、花火、キャンプファイヤー、自由時間・・・た

くさんのことができて良かったです。また来年も楽しみます！

◆(小6)

ぼくは、ミサでじ者をしたことが楽しかったです。朝ごはんがおいしかったです。

◆(小4)

あさごはんをたべました。なぜか手づかみでたべました。でも手づかみでたべたほうがおいしかったです。

◆(小4)

今日は、まず、ミサをしてから、朝ごはんを食べました。そして、この夏キャンプ三日間をふり返ると、友だちとたくさん遊べて、とってもうれしかったです。来年の夏キャンプも、みんなで行って、たくさん遊びたいです。

◆(小4)

今日は、Aにかた車をしてもらった。うれしかった。そして、Aの頭をグシャグシャにしてインコのかみがたにした。金ばつに合わない。黒の方が良いのに・・・。せがたかくて怖かった。

◆(小4)

紙ひこうきをいっぱい飛ばしました。

◆(小4)

今日、おきて、ミサやりました、そして朝ごはんをたべました。この三日間はすごかったのです。来年もまたいきたいです！

◆(小4)

すごくあつかったけど、とちゅうから元気になってよかった。



一泊錬成会消息

育成担当より

教会委員会 育成委員

このたび、九月十四日・十五日の日程で若者を対象とした一泊錬成会を行いました。熊坂神父様をはじめ、引率の大人、そして三十代から専門学生・中高生までの若者、あわせて八名が参加しました。

初日は若者が主体となり、食事の買い出しや調理をし、協力して準備した夕食を囲んで楽しい時間を過ごしました。夜には近くで開催されていたお祭りに参加し、地域のにぎわいも満喫。その後は語らいながらウノをして盛り上がり、神父様と若者同士の交流が深まりました。二日目は高幡教会に戻り、分かち合いの後にミサを行いました。分かち合いでは「神さまに見つけてもらった!」と思えた体験を話し合い、思いを分かち合うことができました。今回の錬成会を通して、普段の教会生活ではなかなか得られない若者同士での語らいや交流を経験できたように思います。



上：あきる野教会集合写真
下：高幡教会集合写真

今回の錬成会を支えてくださった熊坂神父様、引率の大人の方々、そしてお祈りくださった皆さまに心より感謝いたします。この体験が若者たちの信仰と絆を深めるきっかけとなりますように。次回もより多くの若者が参加できるように、準備を進めていきたいと思ひます。引き続き、皆さまのお祈りとご協力をお願いいたします。

感想文

◆(三十代)

約十年ぶりに泊連に参加して中高生と交流できた事は良かったです。世代の全く違う子たちとコミュニケーションを取れる事は教会というコミュニケーションの素晴らしさだと改めて感じました。また機会があったら参加させてもらいます。

◆(専門学生)

全く想定をしていなかった錬成会へ参加したことで、多くの時間を共にできて、まだ知らなかったみんなの面が知れたのが心に響きました。

◆(高1)

家事をして親のありがたみを改めて体感した! 色々な人たちが久しぶりに教会に来たことに対して喜んでくれたり、「会いたかったよ」と言ってくれたりして、たくさん愛を感じた。

◆(中2)

私は初めて一泊錬成会に参加させていただきました。八人での小規模な錬成会でしたが、だからこそ全員とお話できて良かったです。私は二日目は学校だったので「おはようございます」と「さようなら」しか言えなかったけど、それも良い思い出になりました。また来年も行きたいです。

＜お知らせ＞

「あゆみ」の原稿を書いてみませんか?

教会報「あゆみ」は次号で200号を迎えます。この記念すべき200号は皆様の高幡教会での思いを集めて「200号記念特集号」としてクリスマスに発行を予定しております。字数100~700の原稿を十一月末の期限で大募集致します。原稿は紙、テキスト、ワード歓迎します。紙は編集委員まで。

メールはkimcs.stephen@gmail.com

「あゆみ」編集長 金まで。●を@に。